

オランダの農業

2017.05.07

品質管理課 森崎 秀峰



まずは、オランダの農業像をとらえるために、日本と比較してみます。合わせて、隣国も見ていきます。

種目	日本	オランダ	ドイツ	フランス	
オーガニック割合(%)	0.2	2.5	6.2	3.8	
面積(万 ha) 2012 年	国土全体	3,780	415	3,572	5,491
	農耕地以外	3,325	230	1,906	2,607
	農用地	455	184	1,666	2,884
	耕地	425	101	1,183	1,829
	永年作物地	30	4	20	100
	永年採草・放牧地	0	80	463	955

ご存じの通り、オランダの耕地面積は日本よりは小さいのですが、永年採草・放牧地の面積は確保されています。またオーガニック作物は栽培できないだろうと思っていたのですが、それなりに消費はされています。生鮮、畜産、コスメ？何かは見てきてください。



数字の見方を変えてみましょう。

割合や、一人当たりの面積で

見てみると、違った世界が

見えてきます。

種目		日本	オランダ	ドイツ	フランス
オーガニック割合(%)		0.2	2.5	6.2	3.8
比率(%) 2012年	国土全体	100.0	100.0	100.0	100.0
	農用地	12.0	44.4	46.7	52.5
	農耕地以外	88.0	55.6	53.3	47.5
	耕地	11.2	24.4	33.1	33.3
	永年作物地	0.8	0.9	0.6	1.8
	永年採草・放牧地	-	19.2	13.0	17.4

耕地面積を全国土面積と比較してみると、欧州の3カ国は似通っているのですが、日本は地形、食文化の違いがあるためか、大きく異なっています。

種目		日本	オランダ	ドイツ	フランス
オーガニック割合(%)		0.2	2.5	6.2	3.8
1人当 面積 (反)	国土全体	3.01	2.52	4.37	8.82
	農用地	0.36	1.12	2.04	4.63
	耕地	0.34	0.61	1.45	2.94
	永年作物地	0.02	0.02	0.02	0.16
	永年採草・放牧地	-	0.49	0.57	1.53

さらに、1人当たりの面積に変換してみます。ここでの数値は単位が一挙に実感のわく反になります。日本では青果物の実際の供給率は60～70%であることから考えると、単純計算で一人当たり約5畝の面積があると、野菜は供給できることとなります。オランダはその数値を超えています。さらに、生産効率が良ければ・・・。



違った数字を 見てみると

出典
FAO データベース

品目	Japan (日本)		Netherlands (オランダ)		比較	
	Production (生産)1000t	Yield (反収) (kg/ha)	Production (生産)1000t	Yield (反収) (kg/ha)	生産	反収
Potatoes(じゃがいも)	2,456,000	313,665	7,100,258	456,602	289%	146%
Sugar beet(甜菜)	3,567,000	621,429	6,821,774	908,431	191%	146%
Onions, dry(玉ねぎ)	1,169,000	462,055	1,379,000	456,638	118%	99%
Wheat(小麦)	852,400	40,094	1,304,054	91,698	153%	229%
Tomatoes(トマト)	739,900	611,488	900,000	5,056,180	122%	827%
Carrots and turnips(人参、かぶ)	633,200	344,130	548,000	600,482	87%	174%
Cucumbers and gherkins(キュウリ)	548,800	494,414	440,000	7,357,860	80%	1488%
Apples(りんご)	816,300	220,027	353,000	449,739	43%	204%
Pears(梨)	295,100	206,364	349,000	405,672	118%	197%
Chillies and peppers, green(ピーマン、パプリカ)	145,300	437,651	340,000	2,833,333	234%	647%

<http://www.fao.org/faostat/en/#data/QC>

オランダの耕地面積は日本の4分の1程度ですが、上の表を見ると、主要生産目 TOP10 に置いては、玉ねぎを除いて日本の反収を遙かに上回る実績を上げている事が確認できます。

イニシャルコストが日本と同じとするならば、この数字を見ると収益性が大きく違う、または販売価格において大きな弾力性を持たせることが出来ることは分かって頂けると思います。

※ 表の一番下は、旨く印刷できず申し訳ありません、「Chillies and peppers, green(ピーマン、パプリカ)」です。

前回、農産部会で欧州視察を計画したときは、ドイツでオーガニックの視察を盛り込むようにし、オランダでは効率を考えた農業視察を行う様にプログラムを組みました。

今回私が個人的に訪問しようと考えたときも、ワーゲニンゲン大学及び、幾つかの訪問先を考えていました。それらを以下にご紹介させていただきます。

イノチオアグリ株式会社(旧:イシグロ農材)オランダ事務所

<http://www.ishiguro.co.jp/holland/>



日本国内でハウスなどの農業資材などを販売している会社。オランダの大型ハウスの輸入を手がけており、現地に事務所を構えている。日本に輸入されるオランダ型ハウスは、この会社がほぼ取り仕切っていると言ってよい。そのため、様々なノウハウを蓄積している。

日本にオランダの技術を見よう見まねで持ち込むというのは中々難しいようです。しっかりと練り上げられた技術は腰を据えて、気長に習得する必要があるようです。

Urban Farmers

<https://urbanfarmers.com/>

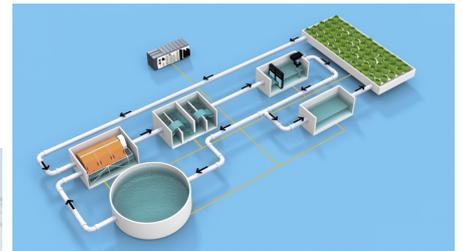


De Schilde, Televisiestraat 2-4,
2525KD, The Hague



都市型

農業施設。このビルの屋上で以下のような循環型農業が行われているんです。



実際にはこんな感じ、



有料でツアーがあるので、申し込もうと考えていました。

この農法については、ハワイ大学でオーガニックでの栽培の研究が行われており、今年から大分県で実際に取り組みが行われる予定です。

ハワイ大学の教授に聞いたところ、まだ採算ラインには乗ってはおらず、エデュケーション含めて採算ラインに乗るところが多いと言っていました。

この農法は、振り返ればメソポタミア文明の頃にもあったような。

今回思い立って、個人でヨーロッパ視察に行こうと思ったのは、これまで20年以上この業界の仕事をさせて頂き、どうも業界を上げてきた先輩達の言葉と、現状とのギャップがあること、各国の現状を今年の年明けから数字を元に紐解いていくと、どうも正しいことを誰も話していないと言う思いがあり、だったら自分の目で見てみようと思ったのです。

残念ながら、願いは叶わず、全てをキャンセルすることになりましたが。

訪問するに当たり、参考にさせて頂いたブログがあります。そのブログを最後に紹介させていただきます。

オランダ農業と移住のススメ

農業を学ぶため、2016年からオランダに移住。日本とオランダの架け橋になるべく奮闘中！

<https://www.yimizuki.com/>

数多くの農業視察レポートがあり、非常に為になります。私はこれまでに、オーストラリアに1度、中国は数度、農業視察に行ったことがあります。その中で、大面積で行う農業というものと、面積は小さくなくても、個人事業主の経営寛容であることを見してきました。

また、畜産の飼料など穀物については、アメリカの穀物業者と話したときに、ストックできるものについては、また別の力学が働き、個人事業者では無く企業の論理、それも大企業の論理が働くことも少しは分かるようになりました。

**実り大きいオランダ農業
視察へ、
お気を付けて、
行ってらっしゃい。**

その環境の中で、有機 JAS、オーガニック、環境保全型などが、どのような配分で継続して行けば良いのか、まだまだ課題はありますが、少しずつ見えてきたように思います。

個人的に書いているブログにも、連載されているようで、ばらばらになってしまっていますが、まだまだ考えている事を数字の裏付けを持って書き続けていく予定です。

ワーゲニンゲン大学を始め、花の流通など、オランダには見るべきところが山ほどあります。機会を改めて、英語(オランダ語はあきらめます)を勉強して、またの機会にヨーロッパに出かけたいと思います。

<https://hidetakamorisakiblog.wordpress.com/>

